

2025年度事業報告書および決算書

(2025年4月1日から2026年3月31日)

■会 員 (2026年3月31日現在)

正会員 (個人) 455名 (フリーランス 353名、インハウス 47名、団体・学校 55名)

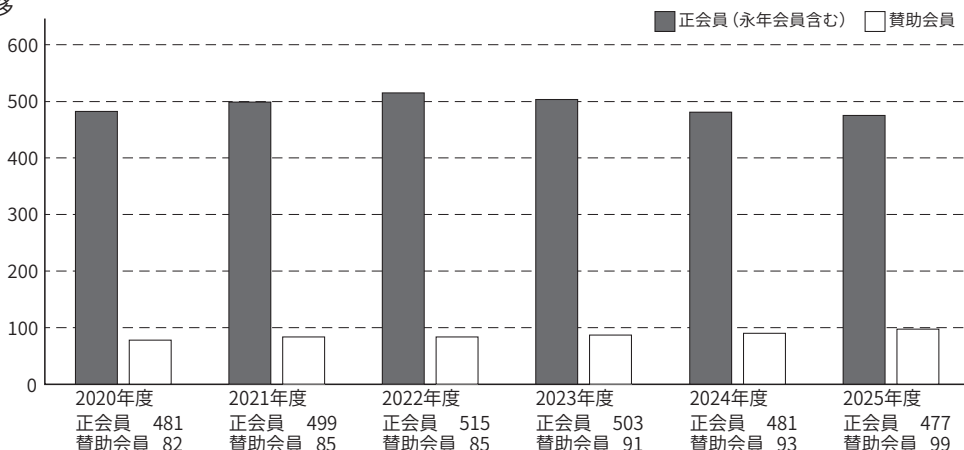
(昨年度からの推移: 新永年会員 10名、入会 15名、種別変更 1名、退会 16名、死亡 5名)

正会員 (法人・団体) 22社 (入会 1社、退会 2社)

賛助会員 (団体) 74社 (入会 3社)

賛助会員 (個人) 25 (入会 3名) 学生会員 18名

会員数の推移



■会 議

1. 定時総会

2025年6月14日(土) 午後3時00分～4時20分、AXISギャラリーにおいて第57回定時総会を開き、下記議案を決議した。

第1号議案: 2024年度事業報告および決算書(案)の件

第2号議案: 外部監事への報酬支払に向けた規則改定(案)

第3号議案: 2025-26年度役員選任(案)

報告: 2025年度事業計画および予算書

2. ブロック総会

2025年度ブロック総会は、下記の会場において開かれた。

東日本ブロック: 2025年6月14日 会場 AXISギャラリー

中部ブロック: 2025年6月28日 会場 名古屋芸術大学

北陸ブロック: 2025年9月5日 会場 金沢美術工芸大学 / オンライン

関西ブロック: 2025年6月28日 会場 大阪デザインセンター

西日本ブロック: 2025年6月27日 会場 メール総会

3. 理事会

以下の件について議決、検討、審議、報告を行った。

第1回理事会 (2025年4月26日 JIDAギャラリー)

職務執行報告(理事長報告、業務執行理事報告)、入会審査と承認、選挙関連規程の一部修正の承認、ミュージアムセレクション選定会運営規則改訂の承認、総会議案書の承認、周年積立金の一時借入の承認、DOOデザインサミット「ジャパンデザインオブ・ザ・イヤー」開催の検討、Red Dot 受託事業の検討、技能五輪の検討、2025-26役員選挙結果報告、ミュージアム事業報告、調査研究事業報告、2024年度委員会別収支決算報告、資格付与事業報告、広報事業報告、事務局諸報告

第2回理事会（2025年5月12日 オンライン）

2025年度総会議案（第1号～3号）の承認

第3回理事会（2025年6月14日 JIDAギャラリー）

理事長互選、副理事長の選任、特別顧問の継続承認、新入会員承認、組織及び担当事業の検討

みなし理事会（2025年7月30日 電子的手法による決議）

中原理事逝去に伴う理事体制変更の件、新入会員承認

第4回理事会（2025年9月6日 JIDAギャラリー / オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、WDO役員選挙における投票方針の承認、社会課題研究委員会受託事業の承認、広報業務の外部委託と新規収入事業の承認、Red Dot 協力に関する覚書締結の承認、DOOへの新規団体参加の検討、深圳文化広場との連携の検討、JIDA SUMMIT 内容の検討、会員規程改定案の検討、財政健全化を目的とした会費値上げの検討、タイムスタンプ制度導入の検討、デザイン検定 G マーク申請の検討、木村一男氏を偲ぶ会進捗報告、Kintone 活用の報告、ブロック活動報告、技能五輪進捗報告、ミュージアムセレクション進捗報告、セミナー他事業報告、広報事業報告、団体交流事業報告、7月末収支計算報告

第5回理事会（2025年11月29日 名古屋国際デザインセンター）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、中間監査及び来期事業計画&予算の検討、JIDA 活動全般についての検討、教育機関へのデザイン検定資料送付の検討、ブロック活動報告、セミナー他事業報告、広報事業報告、ミュージアム事業報告、交流事業報告、資格付与事業報告、調査研究事業報告、体験活動事業報告、事務局諸報告

第6回理事会（2026年1月24日 JIDAギャラリー / オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、会員規程一部変更の承認、DOO 新規加入団体基準の承認、社会課題研究委員会受託事業の承認、2026年度事業計画と第1回目予算案の検討、内務委員会議案の検討、ミュージアム事業報告、資格付与事業報告、体験活動事業報告、ブロック活動報告、交流事業報告、セミナー他事業報告、調査研究事業報告、広報事業報告、事務局諸報告

第7回理事会（2026年3月15日 オンライン）

職務執行報告（理事長報告、職務執行理事報告）、入会審査と承認、事業計画と予算及び内閣府報告事項の承認、総会議案の承認、役員報酬及び費用に関する規程改定の承認、会員規程改定の承認、委員のコンプライアンス問題の審議、ミュージアム事業報告、体験活動事業報告、ブロック活動報告、交流事業報告、セミナー他事業報告、調査研究事業報告、広報事業報告、新永年会員の報告、事務局諸報告

理事会出欠状況

出席回数（出席数・欠席数）

・第1回、第2回理事会（旧役員）

理事：赤澤智津子（2・0） 蘆澤雄亮（2・0） 石川義宗（2・0） 小野健太（2・0） 小幡真也（2・0）
後藤規文（2・0） 田崎咲絵（2・0） 太刀川英輔（2・0） 中原俊三郎（2・0） 松本有（2・0）
村田智明（2・0）

監事：伊奈史朗（2・0） 内野雅子（2・0）

・第3回～第7回理事会（新役員）

理事：浅香秋也（5・0） 石川慶文（4・1） 井上雅弘（5・0） 小幡真也（5・0） 後藤規文（5・0）
高橋翼（5・0） 田崎咲絵（5・0） 太刀川英輔（5・0） 中原俊三郎（0・1） 松本有（5・0）
村田智明（5・0） 藤井将之（3・2） 服部滋樹（1・4）
監事：伊奈史朗（5・0） 長谷高史（4・1） 上仲孝明（5・0）

1. 事業報告

■2025 年度活動概要

理事長：村田 智明

2012年に公益社団法人に移行して以来、当協会はもはやデザイナー単独の組織にとどまるのではなく、デザイナーを取り巻く多様な関係者と協働し、デザイン産業全体の振興を牽引する、より大きく包括的なプラットフォームを構築するために活動している。この課題に対し当年度は、当初の計画で目標とした業界横連携、周辺領域を繋ぐ役割の推進を果たすため、他のデザイン団体やアワード主催機関、スタートアップ支援組織、学生支援団体をはじめ、企業、行政、自治体などとの広範な連携を強化し、積極的な情報発信と共創の機会創出に努めてきた。

その代表的な成果として、以下3つの事業が当年度から新たに始まった。

1) JIDA SUMMIT

「インダストリアルデザイン起点の新産業イノベーション」と称し、スタートアップ領域との連携によるイノベティブな課題解決を目指すビジョンと行動力をテーマにした大きなイベントとした。

9月フォースタートアップス株式会社にて実施。(詳細はセミナー事業報告)

2) 技能五輪国際大会への協力

隔年開催で48回目となる技能五輪国際大会2026上海に向けた選手選考と強化・大会出場までを、厚労省・中央職業能力開発協会(JAVADA)から受託した。これは、24年大会から採用された「工業デザイン技術」という新職種に、日本から初めての代表選手派遣のために、この分野でのパートナーとしてJIDAが選ばれたものである。26年2月には代表選手を選定し、現在は9月の上海国際大会に向けて強化訓練の最中である。28年の愛知開催に向けての準備を進めている。(詳細は交流事業報告)

3) Red Dot への協力

ドイツの世界的デザインアワードとして著名なRed Dotとの協力関係が、当年度からスタートした。当アワードの日本国内への普及啓発と、応募や申請の相談窓口としての協力体制を整えると同時に、JIDAデザインミュージアムセレクションとの連携協力も考え、お互いの発展に相互協力する協定を結んだ。(詳細は交流事業報告)

その他、恒例となっている事業としては、ミュージアムセレクションVol.27、国際ワークショップISDW2025の韓国開催、エコデザインワークショップ、賀詞交歓会、海外から講師を迎えて行なうモビリティデザインのセミナーとワークショップ、インハウス女性デザイナー研究会のワークショップ、素材加工勉強会、子供ワークショップ、大学生向けのデザインコンペ、卒業制作展訪問と優秀作品表彰、医療系やAI系、知財系のセミナー等々、例年通りに実施できた。他にも鉄道デザインセミナー等の各種セミナーや展示会出展等々、多種多様な事業が企画・実施された活力ある年となった。

当年度のこうした多角的な活動を通じてJIDAはデザインの未来を拓く「開かれた受け皿」としての機能を着実に高めている。

(1) 資格付与事業 <<国民から信頼される職能の確立>>

インダストリアルデザイン関連の人材育成を目的に、知識水準の標準化を図り、その知識レベルを第三者からも評価される仕組みとして、検定試験を実施し資格を付与する事業を2010年より行なっている。本事業は、検定事業と関連出版事業との相乗効果を基本として運営している。

当年度は「ものづくりに関わるすべての人のためのデザイン検定」をテーマに、より多くの人にJIDAデザイン検定を認知してもらうため広報活動の強化に注力した。具体的には、Webサイトおよびリーフレットを、より内容が伝わりやすいものへ刷新した。さらに、9月のJIDA SUMMITおよび10月のDesignshipイベントにおいて担当理事が登壇し、これまでJIDAデザイン検定を知らなかった層に向けて周知・訴求を行なった。また、全国のデザイン系および工業系の高校50校に対してJIDAデザイン検定の資料を発送し、これまで十分にアプローチできていなかった、ものづくりに関わる若年層への認知拡大を図った。

出版事業では、1級用テキスト『プロダクトデザイン(改訂版)』が重版、2級用テキスト『プロダクトデザインの基礎(改訂版)』は増刷が決まり、それぞれ年度内に実施された。

1) デザイン検定事業

当年度の受験者数は206名（1級93名、2級113名）となり、前年度比で33名減に終わった。PR活動として新規にポスターを作成し、パンフレットと共に、全国からピックアップした高校に配布した。

2) 関連出版事業

1級用テキストであるJIDA編さん『プロダクトデザイン（改訂版）』の重版第5刷にあたり、検定名称の変更と、10か所程度の軽微な修正を反映した。2級用テキストであるJIDA編さん『プロダクトデザインの基礎（改訂版）』も9月に増刷（1,500部）を行なった。

(2) セミナー他事業 <<専門的知見の充実による社会貢献の推進>>

専門的知見の充実による社会貢献を推進する目的の本事業は、インダストリアルデザインの普及啓発と人材育成のために重要な事業と位置づけ、当年度は通常以上に活発な活動を行なった。当年度で通算107回となったq素材加工勉強会や、定例となっているインハウスセミナーなどは予定通り実施した他、各委員会やブロックが企画・運営するセミナーを各地で実施し、全体では19本、参加人数は800名近くに上った。（事業一覧表参照）

1) 素材加工勉強会

当年度は、第106回、第107回勉強会を6月と10月で開催した。第106回では、オンライン形式でシート成形の勉強会を行った。第107回では、「見えない廃棄」を「美しく見える化」と題し、アップサイクルの現場に触れるため実際の工場に足を運び参加者から好評を得た。2回の勉強会参加者は延べ23名。

2) インハウスデザイナー向けセミナー

「JIDAインハウス女性デザイナー研究会第38期研究活動」を継続実施し、参加者に主体的な学びの機会を提供した。「企業グミ研究活動記」をテーマとして、各社の企業特性や価値観を「グミ」という題材に置き換えて可視化する研究活動を展開し、企業理解と表現研究、会員企業相互の交流促進につながる内容となった。

3) デザインスクール

公開サイトの準備はほぼ終え、コンテンツ制作は具体的に進んだが公開可能な数までには届かず、計画していた当年度中の公開ができなかった。

4) 特別セミナー

その他多数のセミナーの中でも、当年度は定例にはない特別なセミナーを3本開催した。1本目は理事長主導で開催したJIDA SUMMIT（冒頭文中）。2本目は日本の鉄道デザインの第一人者と言われた故木村一男氏の逝去に伴う記念セミナー。3本目はデザインミュージアムセレクションVol.27のゴールド受賞企業によるトークセッションで、いずれも参加者多数のセミナーとなった。（セミナー委員会参照）

(3) 体験活動事業<<次世代人材の育成による国家基盤の充実>>

デザイン系の学生・社会人・小学生など幅広い層を対象に、プロのデザイナーが指導や協働を行う体験型プログラムを実施した。これらの活動は、人材育成および世代・領域を越えた交流の促進に寄与している。なお、以下の事業に加え、企業訪問や工場見学会なども各地で実施した。全体では9本、参加者は200名を超えた。（事業一覧表参照）

1) 国際デザインワークショップ（ISDW）

学生の国際的視野を広げるために、韓国インダストリアルデザイン協会（KIDA）、台湾工業デザイン協会（TIDA）と共同で国際学生デザインワークショップを毎年開催している。当年度は、3カ国から計57名の学生と6名のチューターが集い、ソウル・成水洞（ソンス）で開催された。会場はHanyang大学を拠点とし、8月17日から22日までの6日間にわたり、「Local Creator」をテーマに、全10チームに分かれて極めて濃密なプログラムが展開された。後日報告書が届き、当年度の本事業は無事完了した。

2) Next EcoDesign ワークショップ

8月にThe Gallery Tooにて、正会員のプロデザイナーが学生を指導するワークショップを行ない、エコデザインに取り組んだ。成果は東京ビッグサイト「エコプロ2025」にて展示され、学生とプロの協働による実践的な学びの場となった。参加者はプロと学生合計で37名。

3) 子どもワークショップ

小学生の親子を対象とした恒例の子どもワークショップは、8月に東京ミッドタウンにて2回行なった。1回目は木材の端材とねじを使ったワークショップ。2回目は8年目となる電車ワークショップを行ない、親子合わせて2回合計36名の参加があった。

4) 卒業制作展見学

中部ブロックと北陸ブロックでは、地元のプロデザイナーがデザイン系の大学、専門学校の卒業制作展を訪問し、プロの目線で評価・表彰する事業を当年度も行なった。

5) 学生デザインコンペ

関西ブロックでは「第11回 JIDA 関西ブロック学生デザイン賞」を開催した。当年度は、毎日使い続けたいくなる新たな道具の提案「NEXT STANDARD」をテーマに行ない、66点の応募作品が集まった。

6) 見学会など

中部ブロックでは「JIDA Student Selection2025」と称し、就活に挑む学生と企業との接点をつくる新たな取り組みを行なった。選抜された学生のプレゼンテーションを企業担当者が観て評価、アドバイスをするなど、26名が参加した。他にも福島原発や笠間市の見学、企業の訪問なども行なわれた。

(4) ミュージアム事業 <<デザインを通じた日本文化の高度化>>

ミュージアム事業には主に2つの取り組みがある。ひとつは、デザインの優れた製品を顕彰するための審査・選定を行う事業。推薦品を公募し、当協会審査会が応募商品を選定する。更にその内容を公表するために展覧会の開催、図録の制作・配布を行なうセレクション事業。もうひとつは、選定品を収蔵・管理しながら、インダストリアルデザインの世界を発信するための展示・公開を行う事業である。JIDAデザインギャラリーのショーウィンドウでの常設展示に加え、外部展覧会への協力、および、公式サイト「JIDA デザインミュージアム」の運営を継続的に行なうミュージアム事業である。27年目となった当年度もすべての事業を予定通り滞りなく実施できた。日本の製品開発の進展とともに歴史を重ねており、産業振興、文化振興の観点から今後も継続することが期待されている。

1) セレクション事業：デザインミュージアムセレクション Vol.27

デザインミュージアムセレクション Vol.27 を実施した。過去最高の354点の推薦品の中から当協会審査会による審査・選定、および、外部の特別審査委員によるゴールドセレクションの審査・選定を行い、その数は合計59点（ゴールドセレクション5点含む）となった。例年通り、AXIS ギャラリーでの展覧会、選定証授与式、および、図録の発行を実施した。図録は2,300部を発行し、国内外の関係団体、教育機関、図書館、美術館等に無料配布した。

2) ミュージアム事業：展示と収蔵

セレクションで選定された製品の中から寄贈を受けたものをストックヤードに収蔵、管理、展示した。2025年度のVol.27では17点の寄贈を受けた。これを活用し、JIDA デザインギャラリーに併設されているショーウィンドウ（JIDA デザインミュージアム in AXIS）で選定品の常設展示を実施した。また、ウェブサイト「JIDA デザインミュージアム」にてVol.27を収録、公開し、セレクションのアーカイブとして一層の充実を行なった。当年度は巡回展を実施できなかった。

3) 医療機器の展示会

3年目となる当年度も実施すべく検討を重ねたが、出展希望者が揃わず、当年度は出展を断念した。

4) その他主な展示会など

Next Eco Design 展 2025 は例年通り継続、プロと学生が37名参加。4月に開催されたプレミアムインセンティブショー 2025 は継続して参加でき、4社が出展した。パッケージデザインパビリオンは隔年開催にて当年度は開催されなかった。他にも新たな展示イベントを2本開催した。（事業一覧表参照）

(5) 調査・研究及びその普及事業 <<専門性の深化及び客観化>>

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、社会課題を解決する目的で調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。更に、デザイナーや関連産業に関わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業なども行なう。

当年度は特に社会課題解決を目的とする研究事業で、他団体との共同研究会の中から発生した、産総研、東京科学大学などからの受託研究を多数実施することができた。(事業一覧表参照)

1) 傷害予防のためのデータ活用に関する共同研究

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに事故予防に関する共同研究会を、当年度も例年通り隔月で6回実施した。

①シルバーカー事故リスク低減のための受託研究(経産省⇒産総研⇒JIDA)

高齢者が買い物や散歩に活用するシルバーカーは、段差等に躓くなどによる転倒事故が多い。そのリスクを低減する取り組みとして、特定メーカーとの製品改良提案を目的としたワークショップを行なった。その結果生まれた2点の提案を実証実験するためのワークモデルの設計と試作を実施した。委員会メンバー3名が取り組んだ。更に、東京科学大学がシルバーカーの各種製品や試作品を実験検証するための模擬道路環境の制作も行なった。

②新巧技台デザイン開発事業(オオニシ体育⇒JIDA)

24年度から継続している本プロジェクトは、当年度からPHASE-3に入り、基本パーツの実施デザインから試作設計を行なった。26年度まで継続し社会実装を目指す。

③高齢者身体保持の研究事業(東京科学大学⇒JIDA)

24年度から委員会の中に独自研究グループを3組作り、その中の高齢者グループがテーブルに後付けできる身体保持機能の研究を行なった。その成果として8点の提案が採用され、試作用のデータ作成までを東京科学大学の支援で行なった。

④高齢者ハンドブックの追加修正事業(産総研⇒JIDA)

2019年度に制作したハンドブックに計測データの追加があり、当年度にデータページを9ページ追加することになった。その追加ページの制作を受託し、メンバーが実施した。

2) デザインツールの開発と頒布

当年度の頒布実績は全46冊と昨年度とほぼ同数の販売冊数にとどまった。サンプルズ「1」をプラスチック台紙から紙製台紙へリニューアルする計画は予定通り実施し、200冊分の印刷台紙が納品された。新台紙での組み立ても2回実施し、新バージョンでの出荷をスタートさせた。KIDS DESIGN TOOLSの頒布も5セットではあったが継続して行なった。

3) 知的財産権に関する研究/医・工・デザイン連携研究

日本弁理士会意匠部会と連携した共同研究会、DOO(デザイン団体協議会)保護研究会との共同研究、タイムスタンプの共同契約、弁理士による知財相談会などを行った。また医・工・デザイン連携部会でも研究会やトークイベントなども行われた。JPAA(弁理士会)意匠委員会との合同研究会によって生まれたNDA雛形整備事業は、策定されたNDA雛形の契約書タイプとデザインタイプの2タイプを当年度に公開できた。

(6) 交流事業<<社会貢献及びデザイン価値の拡充発展>>

内外の関係団体との交流を通して、インダストリアルデザインが社会ひいては人間生活そのものに役立つという共通のテーマを、より一層深化させていく活動を行なっている。25年度は世界的に著名なデザインアワードであるRed Dotとの連携協定を締結し、25年度後期から本事業をスタートさせた。一方日本では、技能五輪と呼ばれる「WorldSkills Competition」の世界大会2026上海に向けた日本代表選手の選考と選手の強化訓練、9月の本大会への出場までを支援する団体として厚生労働省から選ばれ、一連の運営事業を受託した。どちらも単年度事業ではなく継続事業となるため、急遽新たな専用部会を立ち上げるなど、組織づくりからスタートするというハードな1年となった。

1) 国内関係機関との交流や協力事業

①技能五輪国際大会への協力(厚労省⇒JAVADA⇒JIDA)

技能五輪国際大会は、2024年のリヨン大会から「工業デザイン技術(Industrial Design Technology)」という職種が新たに採用され、第48回大会である2026上海では2回目の競技開催となる。日本はリヨン大会には選手を派遣できなかったが、2028年には日本開催(愛知大会)が決まっており、そこでは全職種に代表選手を出場させる必要があることから、このIDT職種への選手派遣のために厚労省からJIDAへの要請があったものである。JIDA 渉外委員会技能五輪部会は、10月から選手募集を開始し、12月には2次選考までを行なって1名の日本代表選手を選考した。現在は、26年9月の本大会に向けて選手の強化訓練を継続している。

②他団体、企業、学生等との交流事業

日本デザイン団体協議会（DOO）との交流事業では、「第2回 JAPAN DESIGN SUMMIT」を11月に開催した。DOOが行なう研究活動、JDM（Japan Design Museum）設立に向けた活動や、知財の研究活動などにもJIDAからメンバーが参加し、当年度も同様に活動を行なった。

企業の女性デザイナーに呼び掛けてグループをつくり、毎年違うテーマでワークショップを行なう「インハウス女性デザイナー研究会」の活動も、例年通り発表まで滞りなく実施できた。東京都が行なう中小企業にデザインを導入するTASK事業にも例年通り協力し、4社に対して8人のデザイナーが対応した。デザイン系大学の卒業制作展訪問や、学生デザインコンペ、JIDAが行なうイベントに学生を招待するなど、学生との交流も多種実施し、今後も広がりつつある。

2) 海外関係機関との交流や協力事業

①Red Dot Design Award（Red Dot GmbH⇒JIDA）

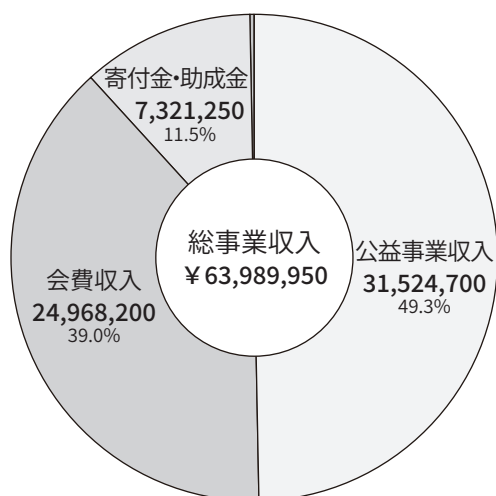
9月にRed Dot GmbHとの間でLoU（Letter of Understanding）を締結し、日本における広報、応募支援、プロモーション業務を開始した。JIDA公式サイト内にRed Dot ページを開設し、応募や問い合わせへの対応をスタートさせた。また、日本国内の受賞者コミュニティ形成に向けた「Red Dot Dinner Tokyo」を開催し、日本を代表する企業やプレスを集め、広報と交流を広げた。

②その他海外団体との交流

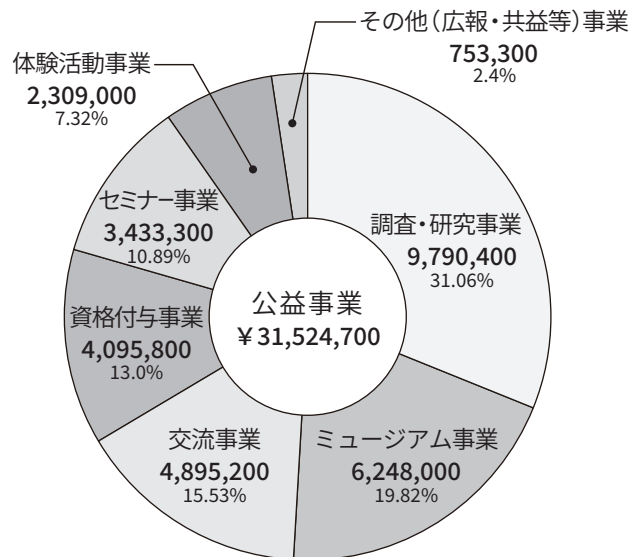
韓国、台湾、日本の各デザイン協会との交流と協力を行なうアセンブリ ADA は、当年度も8月に代表者会議と恒例の3か国学生ワークショップを韓国で開催した。

WDO は、JIDAの太刀川理事がWDO理事として今年も参加し、年間5回のWDO Board Meetingと1回のPre-Board meeting session に出席した。中日工業設計中心（CJIDC）をはじめとする中国団体との交流は、時世の関係から25年度はほとんど動きが無く、計画は実施できなかった。

収入の構成比（収入額・円）



事業別構成比（収入額・円）



(7) 共益事業 《会員扶助及び会員支援》

1) DP ホットライン

フリーランスデザイナーを対象に知財の相談窓口「DP ホットライン」を開設し、特許や意匠登録などに関する相談や、外部との知財に関するトラブル等について専門家に気軽に相談できる機会を設けている。当年度も開設し相談に答えた。

2) 会報誌

「ANNUAL REPORT」と称し、1年間の事業活動をまとめたカラー冊子を編集・印刷し、全会員と関係団体に無償配布している。当年度も40ページの冊子を800部印刷し配布、更には公式サイトにて全ページを開示した。

3) 広報活動

「Portfolio」と称し、会員の紹介ページを公式サイト内に開設した。主にデザイン受託業務を行なう会員が自身の作品や仕事のPRをすることで、デザイナーを探すメーカーとのマッチングを推進することを目的とし、正会員に無償提供を始めた。ダイヤモンドオンラインへの記事発行は、当年度も2件実施した。Workplaceに代わるコミュニケーションツールは、Slackを採用し、委員会を中心とした事業活動での活用を開始した。更に当年度は、Red Dotと技能五輪という二つの新たな事業が始まったため、公式サイト内に新たなページを開設した。イベントカレンダーをトップページに設置し、誰もがイベント日程を常に見られる環境を整備した。

4) その他

会員の創作活動を保護する目的で、「タイムスタンプ」と称するデジタル証明機能を採用することになった。当年度は有志11名による試験運用からスタートし、26年からは会員に安価で活用してもらえるよう本格運用を開始する予定。

(8) 運営体制の充実をはかるための取組

当年度は、運営体制の充実及び透明性の向上を図るため、役員構成に外部理事2名と外部監事1名の登用を行なった。人選は、前年度に改定した役員選挙規則、選挙管理委員会運営の手引きに従って特別選挙にて候補者を選定し、定時総会での承認も得られ総会後から正式に就任した。これにより、理事は合計13名、監事は3名体制となった。外部監事は税理士の資格を有する専門家である上仲孝明氏が就任し、協会のガバナンス強化を計る取り組みの一つとなった。

2025年度実施事業一覧

事業	開催日・期間	タイトル	場所・納入先	主催	参加者人数
資格付与	通年	デザイン検定の実施	全国各地	デザイン検定委員会	206名
	通年	書籍「PRODUCT DESIGN」頒布 (検定テキスト1級・2級)	サイト又はメール	デザイン検定委員会	60冊
	通年	デザイン検定の教材頒布(問題集 1級・2級)	サイトにてDL頒布	デザイン検定委員会	161点
セミナー	4月18日	欧州デザインNOW2025	AXISギャラリー	インハウス部会	27名
	4月25日	戦後の歩みと日本の車体色トレンド	AXISギャラリー オンライン	インハウス部会	152名
	6月5日	第106回素材加工研究委員会勉強会 「革新の一枚で創る、 デザインの新常識-シート成形」	JIDAギャラリー オンライン	素材加工研究委員会	18名
	6月14日	眠れるデザイン大国 ～「マテリアル×デザイン」で 日本を覚醒させるJIDA～	AXISギャラリー	東日本ブロック	85名
	6月28日	関西ブロック講演会 「デザイン経営は眠っている価値を引き出す」	大阪デザインセンター	関西ブロック	25名
	6月28日	中部ブロックBeyondサロン特別編 「私と椅子とデザインと」	名古屋芸術大学	中部ブロック	16名
	9月27日	JIDA SUMMIT ～インダストリアルデザイン起点の 新産業イノベーション～	フォースタートアップス株式会社 オンライン	セミナー部会	128名
	11月14日	医・工・デザイン連携研究部会トークイベント 「医療課題と伝えることの難しさ」	インターナショナル・デザイン・ リエゾンセンター	医・工・デザイン 連携研究部会	38名
	11月29日	木村一男氏を語る会	国際デザインセンター	木村一男を偲ぶ会 実行委員会	72名
	12月5日	Red Dotシンポジウム2025	明治記念館	デザイン賞部会	27名
	12月10日	KUNI ITO 手描きスケッチワークショップ2025	AXISギャラリー	インハウス部会	10名
	12月10日	JIDA 北陸ブロッククリエイティブサロン オンライン001	オンライン	北陸ブロック	39名
	12月11日	木村一男氏追悼鼎談 「木村一男が携わったJR車両のデザイン」	AXISギャラリー	セミナー部会	60名
	12月18日	JIDA流 秘密保持契約書(NDA)活用セミナー	テクノフロント森ヶ崎	プロフェッション委員会	21名
	1月16日	JIDAデザインミュージアムセレクション vol.27 記念セミナー	AXISギャラリー	セミナー部会	38名
	1月23日, 30日	デザイナー向けビジネス英会話	大阪デザインセンター	関西ブロック	4名
	2月5日	田中宏樹氏講演会	ひろしま美術研究所	西日本ブロック	8名
	3月25日	JIDAインハウス女性デザイナー研究会 38期研究報告会 「企業グミ研究活動記」	三菱電機(株) Serendie Street Yokohama CIRCLE	インハウス委員会	12名
	3月25日	JIDA 北陸ブロッククリエイティブサロン オンライン002	オンライン	北陸ブロック	16名

体験活動	8月8日, 10日	子供ワークショップ	東京ミッドタウン	東日本ブロック	36名
	8月17日～23日	International Student Design Workshop	韓国 (KIDA)	ISDW部会	63名
	8月18日～20日	Next Eco Design Workshop	The Gallery Too	エコデザイン研究会	37名
	9月4日	JIDA Student Selection2025 公開プレゼンテーション	FabCafe Nagoya	中部ブロック	26名
	9月30日	<東日本ブロックデーNo.1> 東京電力福島第一原子力発電所・ 廃炉資料館視察ツアー	東京電力廃炉資料館	東日本ブロック	15名
	10月2日	第107回素材加工研究委員会勉強会 ～「見えない廃棄」を「美しく見える化」する アップサイクルの現場に触れる～	セイショク 岡山工場	素材加工研究委員会	5名
	1月17日～2月23日	中部卒業制作展訪問2026	7大学巡回	中部ブロック	延べ200名
	2月	北陸卒業制作見学会 (3県)	5大学巡回	北陸ブロック	約30名
ミュージアム	3月28日	<東日本ブロックデー Vol.2> 茨城県笠間市 チョコットのぞき見ツアー	笠間市	東日本ブロック	15名
	通年	DMセクションVol.26 常設展	JIDAギャラリー	ミュージアム委員会	—
	4月16日～18日	プレミアムインセンティブショー2025	池袋サンシャインシティ	デザインマネジメント研究会	4組
	11月26日～12月2日	木村一男と戦後IDの足跡展	国際デザインセンター ギャラリー	木村一男を偲ぶ会 実行委員会	340名
	12月10日～12日	Next Eco Design 展2025	東京ビッグサイト	エコデザイン研究会	50名
	1月16日～21日	DMセクションVol.27展	AXISギャラリー	ミュージアム委員会	355名
	1月21日	DMセクションVol.27 選定証授与式	AXISギャラリー	ミュージアム委員会	106名
	3月21日	2025年度学生デザイン賞 プレゼンテーション&表彰式	大阪デザインセンター	関西ブロック	66名
調査・研究	2月8日～15日	会員紹介展Vol.1	JIDAギャラリー	ギャラリー部会	68名
	通年 (隔月)	安全に関する共同研究会	JIDAギャラリー	社会課題研究委員会	延べ約90名
	通年	JIDA STANDARD SAMPLES の頒布	サイトにて頒布	素材加工研究委員会	46冊
	通年	KIDS DESIGN TOOLS の頒布	サイトにて頒布	素材加工研究委員会	5セット
	通年	子ども用屋内遊具の安全性研究	オオニシ体育 (株)	社会課題研究委員会	6名
	7～11月	シルバーカー傷害事故リスク低減ワークショップ	産業技術総合研究所	社会課題研究委員会	3名
	11月～2月	シルバーカー試作設計&試作	産業技術総合研究所	社会課題研究委員会	3名
	12日～3月	シルバーカー実験環境制作	東京科学大学	社会課題研究委員会	1名
	9日～3月	身体保持特性評価 (テーブル手掛かり) 試作用データ制作	東京科学大学	社会課題研究委員会	6名
	12月～3月	高齢者ガイドブック追加修正	産業技術総合研究所	社会課題研究委員会	2名
	年6回	日本弁理士会意匠部会との共同研究会	弁理士会館	プロフェッション委員会	延べ約120名
年3回	DOOデザイン保護研究会	オンライン	プロフェッション委員会	2～3名	
交流	8月22日	ADA 代表者会議	韓国 (KIDA)	渉外委員会	20名
	12月5日	Red Dot受賞者ディナー	明治記念館	デザイン賞部会	39名
	12月27日	デザイナー交流サロン「Beyondサロン」	国際デザインセンター	中部ブロック	12名
	1月17日	デザイナー講談&新年会	魚屋の台所 下の一色 ニシキ店	中部ブロック	11名
	1月23日	<JIDA New Years Party> 2026賀詞交歓会	AXISギャラリー	東日本ブロック	95名
	7月～2月	TASK事業 (東京都中小企業への協力事業)	参加企業各社	デザインビジネス研究会	4社×2名
共益	通年	DPホットライン (知財に関する電話相談)	事務局	プロフェッション委員会	—
	8月	JIDA ANNUAL REPORT 2024-25 (報告書)	事務局	広報委員会	800部
	毎月1回	東日本ブロックニュース (メールマガジン)	メール配信	東日本ブロック	全会員

■対外事項

キッズデザイン協議会来局	(金井事務局長) (4月)
ADA ISDW 2025 会議 (Zoom)	(太刀川前理事長、小幡副理事長、井上委員長、青木部会長、 金井事務局長、折田事務局長) (4月)
DOO 運営会議 (Zoom)	(太刀川前理事長、小幡副理事長、金井事務局長) (5月)
中国一行来局	(太刀川前理事長) (5月)
埼玉県 SAITEC 来局	(金井事務局長) (5月)
石橋財団訪問	(村田理事長、石川理事、金井事務局長) (5月)
CJIDC 来局	(太刀川前理事長、井上委員長、橋本委員) (6月)
経済産業省訪問	(村田理事長) (6月)
経済産業省来局	(金井事務局長) (6月)
DOO 運営会議	(村田理事長、田中特別顧問、太刀川理事、金井事務局長) (7月)
台湾銘伝大学来局	(金井事務局長) (7月)
ISDW プレオンラインワークショップ (Zoom)	(村田理事長、井上委員長、御園委員) (8月)
笠間市訪問・市長面会	(村田理事長、石川理事、石川副委員、金井事務局長) (8月)
内閣府訪問	(上仲顧問、金井事務局長) (8月)
埼玉 SAITEC オープンラボ訪問	(村田理事長、金井事務局長) (10月)
インドデザイン協会来局	(金井事務局長) (11月)
Red Dot 企業訪問 (トヨタ自動車株式会社)	(御園委員) (12月)
Red Dot 企業訪問 (キヤノン株式会社)	(小幡副理事長) (12月)
Red Dot 企業訪問 (セイコーエプソン株式会社)	(芝委員) (12月)
観光庁と面会 (産総研)	(社課研メンバー、金井事務局長) (12月)
笠間市訪問	(村田理事長、石川理事、金井事務局長) (2026年1月)
DOO 運営会議	(小幡副理事長、金井事務局長) (2月)
観光庁訪問	(社課研メンバー、金井事務局長) (2月)
ドイツ大使館訪問	(田中特別顧問、折田事務局長) (3月)

【協賛・後援・協力】

- | | | |
|---|--------------------------|--------|
| ・「第 59 回サインデザイン賞」 | 日本サインデザイン協会 | 後援 |
| ・「第 27 回福岡デザインアワード」 | 福岡県産業デザイン協議会 | 後援 |
| ・「2026/27 秋冬 JAFCA カラートレンドセミナー」 | (一社) 日本流行色協会 | 後援 |
| ・「World Interior Week 2025」 | (公社) 日本インテリアデザイナー協会 | 後援 |
| ・「PVC Award 2025」 | PVC Award 実行委員会 | 後援 |
| ・「富山デザインウェーブ 2025」 | デザインウェーブ開催委員会 | 後援 |
| ・「日本パッケージデザイン学生賞 2025」 | (公社) 日本パッケージデザイン協会 | 後援 |
| ・「CREATIVE COLLECTION 2025」 | (株) ビビビット | 後援 |
| ・「EDplace100th memorial: 環境デザインのこれまでとこれからについて考える」 | 日本デザイン学会 | 後援 |
| ・「ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール 2026」 | 新潟県燕市物産見本市協会 | 後援 |
| ・「オートカラーアワード 2025」 | (一社) 日本流行色協会 | 後援 |
| ・「SAITEC オープンラボ」 | 埼玉県産業技術総合センター | 後援 |
| ・「Designship2025」 | (一社) デザインシップ | 後援 |
| ・「第 4 回次世代を担うデザイン展」 | (公社) 日本インテリアデザイナー協会 | 後援 |
| ・「第 11 回レイルウェイ・デザイナーズ・イブニング 2025」 | レイルウェイ・デザイナーズ・イブニング実行委員会 | 後援 |
| ・「2027 年春夏 JAFCA カラートレンドセミナー」 | (一社) 日本流行色協会 | 後援 |
| ・「第 101 回東京インターナショナルギフトショー春 2026」 | (株) ビジネスガイド社 | 協賛 |
| ・「ニッポンものづくりデザインアワード 2025」 | ニッポンものづくりデザインアワード実行委員会 | 協力 |
| ・「PHASE FREE AWARD 2026」 | (一社) フェーズフリー協会 | 後援 |
| ・「Hack-1 グランプリ 2026」 | (一社) デザインシップ | 後援 |
| ・(一財) 日本特許情報機構 評議員 | | 村田 智明 |
| ・(一財) 日本ファッション協会 評議員 | | 太刀川 英輔 |
| ・東洋美術学校・デザイン教育課程編成委員会 委員 | | 浅香 秋也 |
| ・穴吹デザイン専門学校第一回教育課程編成委員会 委員 | | 彌中 敏和 |

2025 年度事業報告の付属明細書（事業報告を補足すべき重要な事項）に記載すべき事項はありません。

I 貸借対照表

令和8年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,287,041	7,527,970	1,759,071
未収会費	1,285,943	1,428,000	△ 142,057
未収金	2,854,703	4,096,311	△ 1,241,608
前払金	284,768	29,760	255,008
商品	1,117,040	1,070,217	46,823
原材料	8,884,530	7,770,018	1,114,512
貯蔵品	936,383	979,140	△ 42,757
流動資産合計	24,650,408	22,901,416	1,748,992
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
JIDA基金	8,513,206	8,502,578	10,628
基本財産合計	8,513,206	8,502,578	10,628
(2) 特定資産			
周年事業積立預金	2,887,500	2,693,750	193,750
退職金積立預金	108,000	72,000	36,000
特定資産合計	2,995,500	2,765,750	229,750
(3) その他固定資産			
設備造作	138,929	175,977	△ 37,048
什器備品	165,020	198,020	△ 33,000
ミュージアム収蔵品	350,758	350,741	17
電話加入権	100,500	100,500	0
保証金	6,489,000	6,489,000	0
その他固定資産合計	7,244,207	7,314,238	△ 70,031
固定資産合計	18,752,913	18,582,566	170,347
資産合計	43,403,321	41,483,982	1,919,339
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,991,594	8,897,755	△ 1,906,161
前受会費	1,182,000	1,540,000	△ 358,000
預り金	195,250	318,955	△ 123,705
未払消費税等	469,400	1,104,600	△ 635,200
流動負債合計	8,838,244	11,861,310	△ 3,023,066
2. 固定負債			
退職給付引当金	108,000	72,000	36,000
固定負債合計	108,000	72,000	36,000
負債合計	8,946,244	11,933,310	△ 2,987,066
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	34,457,077	29,550,672	4,906,405
(うち特定資産への充当額)	8,513,206	8,502,578	10,628
(うち退職金積立預金への充当額)	2,887,500	2,693,750	193,750
正味財産合計	34,457,077	29,550,672	4,906,405
負債及び正味財産合計	43,403,321	41,483,982	1,919,339

II 正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	548,000	735,000	△ 187,000
受取入会金	548,000	735,000	△ 187,000
受取会費	24,420,200	24,471,200	△ 51,000
個人正会員受取会費	13,776,000	14,334,000	△ 558,000
法人・団体賛助会員受取会費	7,866,900	7,375,200	491,700
個人賛助会員受取会費	460,500	387,000	73,500
法人・団体正会員受取会費	2,316,800	2,375,000	△ 58,200
事業収益	31,556,581	34,102,857	△ 2,546,276
書籍頒布収益	2,861,474	2,875,950	△ 14,476
検定登録収益・問題使用収益	2,840,200	3,263,700	△ 423,500
展示・セミナー会費収益	8,447,670	10,871,250	△ 2,423,580
受託事業による収益	12,342,923	10,120,380	2,222,543
その他の活動収益	5,064,314	6,971,577	△ 1,907,263
受取補助金等	4,762,000	4,954,000	△ 192,000
受取地方公共団体補助金	462,000	154,000	308,000
受取民間助成金	4,300,000	4,800,000	△ 500,000
受取寄付金	2,559,236	1,369,700	1,189,536
受取寄付金	2,559,236	1,369,700	1,189,536
雑収益	175,831	94,171	81,660
受取利息	29,306	4,658	24,648
雑収益	146,525	89,513	57,012
経常収益計	64,021,848	65,726,928	△ 1,705,080
(2) 経常費用			
事業費	53,699,807	60,381,258	△ 6,681,451
期首棚卸高	9,819,375	10,655,578	△ 836,203
期末棚卸高	△ 10,937,953	△ 9,819,375	△ 1,118,578
給料手当	10,424,365	10,469,173	△ 44,808
雑給	3,610,852	3,833,083	△ 222,231
退職給付費用	30,600	30,600	0
法定福利費	1,421,921	1,454,972	△ 33,051
旅費交通費	3,677,620	7,142,805	△ 3,465,185
通信運搬費	1,459,019	1,268,306	190,713
会議費	461,792	1,492,113	△ 1,030,321
減価償却費	54,637	76,517	△ 21,880
什器・備品購入費	62,355	62,832	△ 477
印刷製本費	2,378,276	2,462,193	△ 83,917
出展料・参加費	2,433,138	2,794,300	△ 361,162
材料費	4,667,245	2,925,603	1,741,642
水道光熱費	2,006,952	2,018,773	△ 11,821
賃借料	5,865,812	5,476,420	389,392
団体諸会費	786,815	622,313	164,502
諸謝金	6,329,681	7,629,449	△ 1,299,768
租税公課	1,016,925	1,098,682	△ 81,757
事務用消耗品費	280,942	367,041	△ 86,099
委託費	5,770,246	6,113,427	△ 343,181
懇親会費	875,135	1,159,711	△ 284,576
雑費	1,204,057	1,046,742	157,315
管理費	4,794,553	5,152,657	△ 358,104
役員報酬	90,000	0	90,000
給料手当	1,839,594	1,847,501	△ 7,907
雑給	100,000	72,000	28,000
退職給付費用	5,400	5,400	0
法定福利費	250,927	256,760	△ 5,833
福利厚生費	0	5,282	△ 5,282
旅費交通費	454,537	882,819	△ 428,282
通信運搬費	144,299	125,437	18,862
減価償却費	15,411	21,583	△ 6,172
什器・備品購入費	11,877	11,968	△ 91
印刷製本費	99,095	102,591	△ 3,496
水道光熱費	326,713	328,637	△ 1,924
賃借料	1,035,143	966,427	68,716
諸謝金	39,086	150,000	△ 110,914
租税公課	6,495	7,018	△ 523
事務用消耗品費	45,735	59,751	△ 14,016
委託費	117,760	124,764	△ 7,004
雑費	212,481	184,719	27,762
経常費用計	58,494,360	65,533,915	△ 7,039,555
評価損益等調整前当期経常増減額	5,527,488	193,013	5,334,475
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,527,488	193,013	5,334,475
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
収藏品受贈益	17	24	△ 7
経常外収益計	17	24	△ 7
(2) 経常外費用			
未収会費取立不能分	621,100	549,000	72,100
経常外費用計	621,100	549,000	72,100
当期経常外増減額	△ 621,083	△ 548,976	△ 72,107
当期一般正味財産増減額	4,906,405	△ 355,963	5,262,368
一般正味財産期首残高	29,550,672	29,906,635	△ 355,963
一般正味財産期末残高	34,457,077	29,550,672	4,906,405
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	34,457,077	29,550,672	4,906,405

III 正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業	その他の事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取入会金	274,000	186,320	87,680	548,000
受取入会金	274,000	186,320	87,680	548,000
受取会費	12,210,100	7,418,160	4,791,940	24,420,200
個人正会員受取会費	6,888,000	4,132,800	2,755,200	13,776,000
法人・団体賛助会員受取会費	3,933,450	2,360,070	1,573,380	7,866,900
個人賛助会員受取会費	230,250	230,250	0	460,500
法人・団体正会員受取会費	1,158,400	695,040	463,360	2,316,800
事業収益	30,756,581	800,000	0	31,556,581
書籍頒布収益	2,861,474	0	0	2,861,474
検定登録収益・問題使用収益	2,840,200	0	0	2,840,200
展示・セミナー会費収益	8,056,170	391,500	0	8,447,670
受託事業による収益	12,342,923	0	0	12,342,923
その他の活動収益	4,655,814	408,500	0	5,064,314
受取補助金等	4,762,000	0	0	4,762,000
受取地方公共団体補助金	462,000	0	0	462,000
受取民間助成金	4,300,000	0	0	4,300,000
受取寄付金	2,466,056	93,180	0	2,559,236
受取寄付金	2,466,056	93,180	0	2,559,236
雑収益	175,831	0	0	175,831
受取利息	29,306	0	0	29,306
雑収益	146,525	0	0	146,525
経常収益計	50,644,568	8,497,660	4,879,620	64,021,848
(2) 経常費用				
事業費	48,959,061	4,740,746	0	53,699,807
期首棚卸高	9,819,375	0	0	9,819,375
期末棚卸高	△ 10,937,953	0	0	△ 10,937,953
給料手当	9,320,609	1,103,756	0	10,424,365
雑給	3,545,852	65,000	0	3,610,852
退職給付費用	27,360	3,240	0	30,600
法定福利費	1,271,365	150,556	0	1,421,921
旅費交通費	3,305,726	371,894	0	3,677,620
通信運搬費	1,234,555	224,464	0	1,459,019
会議費	244,750	217,042	0	461,792
減価償却費	45,881	8,756	0	54,637
什器・備品購入費	62,355	0	0	62,355
印刷製本費	1,981,897	396,379	0	2,378,276
出展料・参加費	2,433,138	0	0	2,433,138
材料費	4,627,875	39,370	0	4,667,245
水道光熱費	1,820,259	186,693	0	2,006,952
賃借料	5,313,735	552,077	0	5,865,812
団体諸会費	597,979	188,836	0	786,815
諸謝金	6,299,681	30,000	0	6,329,681
租税公課	1,007,058	9,867	0	1,016,925
事務用消耗品費	231,941	49,001	0	280,942
委託費	5,122,565	647,681	0	5,770,246
懇親会費	506,489	368,646	0	875,135
雑費	1,076,569	127,488	0	1,204,057
管理費	0	0	4,794,553	4,794,553
役員報酬	0	0	90,000	90,000
給料手当	0	0	1,839,594	1,839,594
雑給	0	0	100,000	100,000
退職給付費用	0	0	5,400	5,400
法定福利費	0	0	250,927	250,927
旅費交通費	0	0	454,537	454,537
通信運搬費	0	0	144,299	144,299
減価償却費	0	0	15,411	15,411
什器・備品購入費	0	0	11,877	11,877
印刷製本費	0	0	99,095	99,095
水道光熱費	0	0	326,713	326,713
賃借料	0	0	1,035,143	1,035,143
諸謝金	0	0	39,086	39,086
租税公課	0	0	6,495	6,495
事務用消耗品費	0	0	45,735	45,735
委託費	0	0	117,760	117,760
雑費	0	0	212,481	212,481
経常費用計	48,959,061	4,740,746	4,794,553	58,494,360
評価損益等調整前当期経常増減額	1,685,507	3,756,914	85,067	5,527,488
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	1,685,507	3,756,914	85,067	5,527,488
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
収蔵品受贈益	17	0	0	17
経常外収益計	17	0	0	17
(2) 経常外費用				
未収会費取立不能分	621,100	0	0	621,100
経常外費用計	621,100	0	0	621,100
当期経常外増減額	△ 621,083	0	0	△ 621,083
他会計振替前当期一般正味財産増減額	1,064,424	3,756,914	85,067	4,906,405
他会計振替額	1,666,820	△ 1,666,820	0	0
当期一般正味財産増減額	2,731,244	2,090,094	85,067	4,906,405
一般正味財産期首残高	△ 16,018,959	21,445,067	24,124,564	29,550,672
一般正味財産期末残高	△ 13,287,715	23,535,161	24,209,631	34,457,077
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 13,287,715	23,535,161	24,209,631	34,457,077

IV 財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

市場価額のあるものは、時価法を採用している。

満期保有目的の債券は償却原価法(定額法)によっている。

その他のものは原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

材料及び貯蔵品は最終仕入原価法によっている。

(3) 固定資産の減価償却の方法

設備造作については、旧定額法及び定額法を採用している。

什器備品については、旧定額法及び定額法を採用している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
JIDA基金	8,502,578	10,628	0	8,513,206
小 計	8,502,578	10,628	0	8,513,206
特定資産				
周年事業積立預金	2,693,750	193,750	0	2,887,500
退職金積立預金	72,000	36,000	0	108,000
小 計	2,765,750	229,750	0	2,995,500
合 計	11,268,328	240,378	0	11,508,706

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
JIDA基金	8,513,206	(0)	(8,513,206)	(—)
小 計	8,513,206	(0)	(8,513,206)	(—)
特定資産				
周年事業積立預金	2,887,500	(0)	(2,887,500)	(—)
退職金積立預金	108,000	(—)	(—)	(108,000)
小 計	2,995,500	(0)	(2,887,500)	(108,000)
合 計	11,508,706	(0)	(11,400,706)	(108,000)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設備造作	1,565,475	1,426,546	138,929
什器備品	7,695,109	7,530,089	165,020
合 計	9,260,584	8,956,635	303,949

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
ふるさと納税制度 団体応援補助金	港区	0	462,000	462,000	0	-
小 計		0	462,000	462,000	0	
助成金						
寄附助成金	(公財)石橋財団	0	4,300,000	4,300,000	0	-
小 計		0	4,300,000	4,300,000	0	
合 計		0	4,762,000	4,762,000	0	

7. 関連当事者との取引の内容

開示すべき取引は該当なし。

8. 引当金の内訳

引当金の内訳は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	72,000	36,000	0	0	108,000
合 計	72,000	36,000	0	0	108,000

9. その他

(資産除去債務に関する注記)

当法人は事務所に係る不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復義務を有している。しかし、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、かつ、将来移転等の予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができない。

そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

V 付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

注記に同内容が記載のため省略。

2. 引当金の明細

注記に同内容が記載のため省略。

VI 財産目録

令和8年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
【流動資産】				
	現金	手許保管	運転資金	435,464
	預金	普通預金 みずほ銀行六本木支店他	運転資金	6,926,343
		郵便振替 六本木駅前支店	運転資金	1,925,234
	未収会費	令和7年度会費	公益目的事業及び法人の管理運営に係る会費の未収分	1,285,943
	未収金	令和7年度事業収入	公益目的事業に係る未収分	2,854,703
	前払金	令和8年度事業費用	公益目的事業に係る前払金	284,768
	商品	サンプル帳1～6	公益目的事業の頒布品在庫	1,117,040
	原材料	サンプル帳仕掛品	公益目的事業の頒布品仕掛品在庫	8,884,530
	貯蔵品	書籍等	公益目的事業の在庫	936,383
流動資産合計				24,650,408
【固定資産】				
(基本財産)				
	JIDA基金	定期預金 みずほ銀行六本木支店	公益目的事業の寄附を基本財産として管理	8,513,206
基本財産合計				8,513,206
(特定資産)				
	周年事業積立預金	定期預金 みずほ銀行六本木支店	公益目的事業の積立金であり公益充実資金として管理(公益充実資金)	2,887,500
	退職金積立預金	定期預金 みずほ銀行六本木支店	公益目的事業及び管理運営使用目的の特定資産	108,000
特定資産合計				2,995,500
(その他固定資産)				
	設備造作	ギャラリー照明設備	公益目的事業及び管理運営に使用(公益目的保有財産65.5%、法人活動保有財産34.5%)	138,929
	什器備品	パソコン、机等	公益目的事業及び管理運営に使用(公益目的保有財産65.5%、法人活動保有財産34.5%)	165,020
	ミュージアム収蔵品	ミュージアム収蔵品	公益目的事業に使用(公益目的保有財産)	350,758
	電話加入権	5回線	管理運営に使用(法人活動保有財産)	100,500
	保証金	事務局分	管理運営に使用(法人活動保有財産)	6,489,000
その他固定資産合計				7,244,207
固定資産合計				18,752,913
資産合計				43,403,321
【流動負債】				
	未払金	令和7年度事業費	公益目的事業及び管理運営に伴う未払い金	6,991,594
	前受会費	令和8年度会費	公益目的事業及び管理運営に係る年会費収入	1,182,000
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び管理運営に係る預かり金等	195,250
	未払消費税等	令和7年度消費税	公益目的事業及び管理運営に伴う消費税	469,400
流動負債合計				8,838,244
【固定負債】				
	退職給付引当金		退職金の支払いに備えている	108,000
固定負債合計				108,000
負債合計				8,946,244
正味財産				34,457,077

公益目的保有財産の明細




財産種別	公益認定前取得 不可欠特定財産	公益認定後取得 不可欠特定財産	その他の 公益目的保有財産	使用事業
その他固定資産 設備造作			ギャラリー照明設備等の65.5%相当額 90,999 円	公益目的事業 (その他事業・法人 会計と共用)
その他固定資産 什器備品			パソコン・机等の65.5%相当額 108,088 円	公益目的事業 (その他事業・法人 会計と共用)
その他固定資産 ミュージアム収 蔵品			ミュージアム収蔵品 350,758 円	公益目的事業
合計			549,845 円	

監査報告書

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会
理事長 村田智明 殿

2026年5月8日

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

監事 伊奈史朗 
監事 長谷高史 
外部監事 上仲孝明 

私は、2025年4月1日から2026年3月31日までの第58会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査の方法の概要

- 会計監査について、帳簿ならびに関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関連書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- 貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、附属明細書、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し法人の収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- 事業報告書、事業報告の附属明細書は事実であると認める。
- 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。